

令和4年度第1回館林市総合教育会議議事録

開会年月日時刻	令和4年11月18日(金) 午後3時00分
閉会年月日時刻	令和4年11月18日(金) 午後4時19分
会議の場所	館林市文化会館 3号室

会議次第

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 協議・調整事項
  - (1) 公立学校の老朽化と児童生徒数の現状・課題について
  - (2) 日本遺産「里沼(SATO-NUMA)」の現状・課題と今後について
- 4 その他
- 5 閉会

令和4年度第1回館林市総合教育会議議事録

<p>出席者</p>	<p>館林市長 館林市教育委員会 教育長 教育長職務代理者 委員 委員 委員</p> <p>多 田 善 洋 川 島 健 治 堀 口 哲 哉 木 戸 浩 之 栗 原 昇 金 子 千 秋</p>
<p>説明等の ため出席 した者</p>	<p>(事務局) 政策企画部長 教育次長 秘書課長 企画課長 教育総務課長兼学校給食センター所長 学校教育課長 文化振興課長 教育総務課 総括係長 施設整備係長 文化振興課 日本遺産推進係長 書記</p> <p>戸 叶 俊 文 始 澤 勝 也 新 井 孝 行 田 口 真 樹 武 井 邦 晴 井 戸 健 二 中村 豊 折 原 嘉 和 矢 口 敦 吉 村 昭 和 横 山 瑠璃子</p>

令和4年度第1回館林市総合教育会議議事録

教育総務課長

皆さん、こんにちは。定刻となりましたので、ただいまより令和4年度第1回館林市総合教育会議を開会いたします。

(午後3時00分)

教育総務課長

司会を務めさせていただきます、教育総務課長の武井です。よろしくお願いたします。はじめに、会議の招集者であります多田市長よりご挨拶をお願いいたします。

市長

皆さん、こんにちは。本日は、教育長をはじめ教育委員の皆様にはお忙しい中、総合教育会議にお集まりいただきまして、心より感謝を申し上げます。また、日頃より本市の教育行政に対しまして多大なるご尽力をいただき、誠にありがとうございます。

これまで、この総合教育会議では様々な教育課題などについて協議してまいりましたが、今回の議題の1つは、公立学校の老朽化と児童生徒数の現状・課題についてでございます。少子化は全国的な課題でもございますが、ご案内のとおり、本市では国のこども家庭庁創設に先駆けて今年度からこども局を設置し、公立幼稚園・保育園の認定こども園化による統廃合を推進しております。令和5年度から順次開園を目指して準備を進めておりますが、本日の会議では学校に焦点を当て、施設の老朽化と少子化に伴う児童生徒数の現状と課題を共有して、取り組むべき方向性を見いだしてまいりたいと考えております。そして、もう1つの議題でございます日本遺産「里沼」の現状・課題と今後についてでございますが、令和元年5月に本市の里沼が日本遺産に認定されてから、3年以上が経過いたしました。日本遺産関係につきましても、教育委員会の職員にその事務をお願いしているところでございます。3年後の令和7年度に認定に係る再審査がございますので、これまでの取組と併せまして、再審査に向けた今後の取組についてこの機会に説明させていただきたいと考えている次第でございます。

結びとなりますが、この総合教育会議は、教育委員会と情報の共有を

令和4年度第1回館林市総合教育会議議事録

	<p>図りながら意見を交わす貴重な機会でございますので、忌憚のないご意見をいただき、本日の会議が実りあるものとなりますようお願いを申し上げます。挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。</p>
教育総務課長	<p>ありがとうございました。それでは、会議に入らせていただきます。ここからは、館林市総合教育会議運営要綱第3条の規定に従いまして、多田市長に議長を務めていただきます。それでは、早速ですがよろしくお願いいたします。</p>
市長	<p>それでは、これより議長を務めさせていただきます。お手元の次第をご覧くださいと思います。3番、協議調整事項に入ります。はじめに、(1) 公立学校の老朽化と児童生徒数の現状・課題についてを議題といたします。これにつきまして、協議・調整事項とした理由を教育委員会事務局から説明願います。</p>
教育次長	<p>教育次長の始澤です。よろしくお願いいたします。公立学校の老朽化と児童生徒数の現状・課題について、協議・調整事項とした理由を申し上げます。</p> <p>本市16の小中学校には、増築部分を含む校舎・屋内運動場等を含めまして、全部で現在90棟の建築物がございます。これらの多くは、第2次ベビーブームでもありました昭和40年から50年代に建築されており、築45年以上の建築物が面積ベースでは約4分の1を占め、全棟平均でも築38年を経過しているという状況にあります。</p> <p>一方、少子化が現在顕在化しており、その対応として、先ほど市長のご挨拶にもありましたが、公立幼稚園につきましては保育園との統廃合を伴いながら認定こども園化を進めており、学校につきましても、児童生徒数が年々減少にあることから、幼稚園同様、何らかの検討が必要な時期を迎えております。</p> <p>こうしたことから、本日は皆様にこれらの現状や課題につきましてご</p>

令和4年度第1回館林市総合教育会議議事録

	<p>確認いただいた上で、様々な視点からご意見を頂戴し、今後につなげていく必要があると考えまして議題とさせていただきました。よろしくお願いいたします。</p>
<p>市長</p>	<p>次に、関連する資料が用意されておりますので、事務局より説明願います。</p>
<p>教育総務課長 及び 学校教育課長</p>	<p>(1) 公立学校の老朽化と児童生徒数の現状・課題について (別紙資料(1)に基づき説明)</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。それでは、これよりご質問やご意見等を伺いたいと思います。最初に、堀口委員お願いします。</p>
<p>堀口委員</p>	<p>今のご説明の中で伺いたい点があります。各校で用務員や市の担当の方がいらっしゃると思いますが、そういった中で、定期的な雨樋の清掃や樹木の剪定といったことは今までどのくらいの頻度で行われていたのか教えていただければと思います。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>定期的に作業をするという決まりはございません。用務員の大事な役割の一つとして校内の美化活動というものがありますが、脚立に乗って手が届く範囲内で校長先生や教頭先生、あるいは自ら気がついた場所の剪定や枝おろしというのはこれまでもされていると思います。教育総務課の施設整備係でも日頃から学校といろいろ連携していますので、何か様子を見に来てほしいと言われれば施設整備係の職員がすぐ学校に駆けつけて、状況を見て職員の手でできると判断すればやっってしまうこともあります。</p> <p>要するに、こういった作業は随時気がついた時点でということになります。ただ、今後の作業は学校の用務員又は施設整備係の職員、あるいはどうしても素人では手が出せない場合は業者に頼むという3つ</p>

令和4年度第1回館林市総合教育会議議事録

	<p>に区分けして、計画的にやっていこうと考えております。</p> <p>それから、雨樋の清掃についてです。こちらも同じく、安全に我々でも清掃ができるようなところは気付いた時点で行います。ところが、体育館の屋根など非常に危険を伴うものについては業者をお願いしなければなりません。雨樋の清掃というのはこれまで予算を持っていなかったのですが、今後はそういったことも必要になってくるのではという認識でいるところです。以上です。</p>
堀口委員	ありがとうございます。
市長	次に、木戸委員お願いします。
木戸委員	先ほどの質問に関連しまして、落ち葉の対応というところで、民家等に隣接する倒木や枯れ木等の危険木を処理するというのは、例えば人がもう住んでいない空き家などがあった場合、処理はどのように行うのでしょうか。
教育総務課長	我々の想定としては、公有地に生えている樹木が周りの民家にご迷惑をかけないよという認識でしたが、ご質問いただいて、そうかとは思いました。民家、あるいは民地の樹木が学校に影響を及ぼしているケースのうち、明らかに直接影響を受けているものは現在確認されていないところでございます。日頃の巡回活動で確認に努めておりますが、今後そういったものが発見された場合、あるいは学校から直接苦情をいただいたりする場合には、空き家の所有者をリサーチさせていただいて、必要なことを申し入れするというスタンスでいるところでございます。
木戸委員	ありがとうございます。
市長	次に、金子委員お願いします。

令和4年度第1回館林市総合教育会議議事録

<p>金子委員</p>	<p>(1)－1の中で、施設の長寿命化の目標が80年となっておりますが、80年とした理由をお聞きしたいです。80年ということは、施設平均残年数の一覧表を見ますと半分以上ということですよ。このあと残りの40年間をどのようにしていくのか。メンテナンスをしていかなければならないと思うのですが、40年後にはいろいろと建設ラッシュになってしまうのかなと思います。そういった部分はどのようにしているのでしょうか。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>まず、目標使用年数を80年と設定させていただいている理由ですが、公共施設の使用年数設定にあたりましては、市の公共施設等総合管理計画にもうたわれております。その大元は何かといいますと、一般社団法人日本建築学会から発出されております、「建築物の耐久計画に関する考え方」というものがあるのですが、そこに示された望ましい目標使用年数です。鉄筋コンクリートの場合でいいますと、大体それくらいの年数、物理的な耐用年数ということで、市の方もそれを参酌して計画を立てているところでございます。</p> <p>それから、もう1つのご質問ですけれども、当然、館林市の公共施設等総合管理計画に今後の老朽化対策や長寿命化対策、その考え方が整理・集約されているところなのですが、施設維持に関わる将来負担の平準化や施設の更新費用の縮減を実現しようと思うと、ある程度の時期になったら大規模改修をかけて延命化を図っていく、そういうような計画で進めているところでございます。従いまして、そこら中に新しく建て直すということがないように市の方でも何とか長寿命化を図るべく、予防保全的な発想でメンテナンスしていこうというところでございます。</p>
<p>金子委員</p>	<p>メンテナンスを毎年やっていきますと、かなりの費用がかかってきますよね。そういうものをどこかで減らすことはできないのかと思うのと、どこかで止めて、個人的には新しいものに変えていくというか、</p>

令和4年度第1回館林市総合教育会議議事録

市長

そういうことも必要なのかなと思います。40年後にいくらメンテナンスを加えてきても、もしかして建築基準法に合わなくなってしまうのであれば、そういうことも考えていく必要もあるのかと思って質問したのですが、お話を聞いてわかりました。

次に、栗原委員お願いします。

栗原委員

施設について質問します。屋内運動場ですが、例えば六小の屋内運動場、基礎はもう58年経過年数が経っていて、建物だけは15年ということで、見た目はとても新しいですね。そうすると、これは基礎部分が58年経っているから建て直さなくてはいけないのか。それとも建物は元気だからまだこのままだけりのかというのを1つ教えてほしいのと、もう1つは順次七小の教室耐震等をやっていますが、もう耐震工事はしなくていいのでしょうか。トイレ改修についても七小のトイレ改修を令和3年度にさせていただいたのですが、今後もトイレ改修についてはしなくて大丈夫なのかを教えてください。

教育総務課長

まず、1つ目のご質問ですが、六小の屋内運動場につきましては、平成20年に既存の鉄骨を生かした大規模改修工事を施しました。その内容につきましては、壁・屋根・床等のリニューアルを図るものでございました。見た目は新築そっくりだと思います。これによって目標使用年数が延びることはないと考えておりますが、物理的な耐用年数は延ばしていけるのかなと考えております。従いまして、屋内運動場そのものの残年数としては古い鉄骨があと22年ですので、残年数が必ずしも22年ということではないという認識でございます。

それから2つ目のご質問ですが、市内の小中学校全てで耐震改修は済んでおります。

3つ目ですが、トイレの大規模改修につきましては、第九小学校をはじめ一部の学校が未着手となっております。順次事業化できるように努力を続けているところでございます。なお、中学校は全校終了して

令和4年度第1回館林市総合教育会議議事録

	<p>いるところでございます。以上です。</p>
栗原委員	<p>そうすると、体育館は見た目よりも少し延びて使えるということなのですね。</p>
教育総務課長	<p>実際にあと何十年使えるとははっきり言えないと思いますが、できる限り長く使っていくということが一応私どものスタンスではございます。当然、もし教育活動上で何か支障が出てくるということが認められたときには、何らかの手を打つといたしますか、一部改修などそういったものはかけていく必要があるかなというふうには考えております。</p>
栗原委員	<p>ありがとうございました。もう1つ、先ほど適正化ということで話がありました。平成3年に美園小学校が増えてから、館林市では30年以上学区などは変わっていないですよ。例えば、A小学校が少ないからB小学校に移すという方法もありますが、個人的には少し視点を新たにして、A・Bの小学校とCの中学校を合わせた小中一貫校等を館林市としても考えていけたらなと思います。そうすることによって、中1ギャップの解消、いじめ不登校問題、あるいは教科担任制ですか、メリットがたくさんあると思います。お金がとてもしっかりかかりますが、そういうことも一つ視野に入れたらどうかということです。</p>
学校教育課長	<p>貴重なご意見ありがとうございます。栗原委員がおっしゃったような様々なメリット等を考えられればと思います。いろいろな視点から長期的に考えていく必要がありますし、委員の皆様からも様々なご意見をいただきながら、今後の方向性というものを検討していく必要があるというふうには考えております。以上です。</p>
栗原委員	<p>太田市では北の杜学園、みどり市ではあずま小中学校、市町村によって義務教育学校が小中一貫校というようになっているところもある</p>

令和4年度第1回館林市総合教育会議議事録

	<p>ので、館林市もすぐということではないですが、それも視野に入れて小規模校の改修をすることで、そこに通いたいという児童生徒がいれば、どこからでも通えるような、もう一步発展した形態の学校をつくっていくことも一つの方策なのかなという気がしました。ただ、とてもお金がかかる。学区も再編しなくてはいけないので、少し大変な作業だと思えます。</p>
金子委員	<p>今小中一貫校の話が出ましたが、小中一貫校を館林市がもし進めていくとしたときに、地域の子どもたちだけがその学校に通える方法と、希望すれば館林市内全ての子が入ることができる方法と、2つの方法があると思えます。実際に、もし市内全域を対象にしたとして、とても希望者が多くて集中してしまう場合など、そういうことも考えていかなければならないと思えますが、そののところどうでしょうか。</p>
学校教育課長	<p>それにつきましては申し訳ございません、本市として今後どのような体制をとっていくかというのは、これからいろいろな議論を重ねる必要があると思えますので、一概に今の時点では申し上げられないのですが、先ほど栗原委員がおっしゃったように、近隣の義務教育学校を見ますと、やはりA小学校とB中学校、あるいはA・B小学校とC中学校というようなところから学区制を敷いているのが現状では一般的に多いというような情報を聞いているところではあります。</p>
教育長	<p>今の学校教育課長のお話は、太田市やみどり市では住んでいる学区から通って来ている児童生徒に限られているということですね。</p>
学校教育課長	<p>基本的にはそのように聞いております。</p>
教育長	<p>ありがとうございます。</p>
市長	<p>では、次に木戸委員お願いします。</p>

令和4年度第1回館林市総合教育会議議事録

<p>木戸委員</p>	<p>資料（１）－１７の学校統合に関して留意すべき点というところで、受益者である保護者に対すること、声を重視することが重要であるとありますが、そういった意味において保護者に対してアンケートを取ったり説明会を開いたり、そういったことを行ったことはあるのでしょうか。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>これまで、そういったことはまだしていないのが実情でございます。もし今後、学校統合に向けた動きが生じるようであれば、保護者の方や地域の方々の十分な理解や協力を得ることが必須の条件となるのかなというふうには考えているところでございます。以上です。</p>
<p>木戸委員</p>	<p>わかりました。</p>
<p>市長</p>	<p>次に、堀口委員お願いします。</p>
<p>堀口委員</p>	<p>今回のこの議題に関して私もいろいろと調べてみたのですが、新潟県柏崎市では令和2年に総合教育会議の中で同じようなことが議題になったそうです。そこから教育委員会内にプロジェクトチームのようなものが立ち上がって、学校規模の適正化や学校区再編等を検討して、どのような形がいいのか指針を策定したそうです。10年間でそれを行っていくものとして始まったそうなのですが、こういった会議を契機に、そういったものを今後考えていくというようなことはあるのでしょうか。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>新潟県柏崎市の事例は自分も把握しておらず申し訳なかったのですが、ある程度中長期的なスパンを見て段階的に事務を進めていくということは必要という認識はございます。ただ、それを具体的にどういう形で、教育委員会内の人間だけでいいのか、あるいはいろいろな識者の方ですとか、どのような人たちを集めて、審議会がいいのか、普</p>

令和4年度第1回館林市総合教育会議議事録

	<p>通のプロジェクトチームがいいのか、というようなところも何もない状況ですので、いただいたご意見を参考にしながら今後の研究・検討材料にしていきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。</p>
堀口委員	<p>ありがとうございます。</p>
市長	<p>(1)－7の小学校新入生予定数を見ますと、令和4年度の実績というのは当然今年ですが、524名の新入生が入ってきているわけです。ずっと表を見ていきますと、9年度は384名というショッキングな数が出ているのも事実です。ですから、やはりこういったこともだんだんに考えていかないとと思ひます。 それでは、最後に教育長お願ひします。</p>
教育長	<p>国の方では、単学級、各学年が1学級になった時点で学級編制ができなくなるということから、統廃合などについても検討を始める必要があるのではないかというのが、平成27年のものですが、編制に関する手引きのようなものに出ています。ただ、学校の統廃合というのは、地域に住んでいらっしゃる方にとって学校は地域の核になっているものですから、そう簡単に進めるというのはかなり厳しいところがあるかなと思ひます。やはり、先ほど学校教育課長の話にもありましたように、心のよりどころになっているような部分もありますので、慎重に審議を進めていく必要があるのかなというふうにも思ひます。 ただ一方で、今市長がおっしゃったように、ある学校では1学年の入学者が3名や4名で、現在も複式学級が行われている学校もあるわけですが、そういったときに同学年の友達が3人のままずっと6年間生活していくわけです。やはり、小学校の6年間はかけがえのない時期でもありますし、切磋琢磨も必要な年代にそれでいいのだろうかというのは私の中でも疑問と申しますか、このままでいいのかという思ひは正直ございます。先ほど教育総務課長からもお話がありましたか、このままずっと何年も同じように維持継続していくのは、かなり費用</p>

令和4年度第1回館林市総合教育会議議事録

もかかっていくということも考えていかなければなりません。市としても、いずれは統廃合も考えていかななくてはいけないのかなと思います。ですが、では3年後こうしましょうと、短い期間でできることではないとも思いますので、やはり10年後を見据えて市全体で再編などについて検討していくことも必要かと思っています。堀口委員がおっしゃったように、今回を機会に教育委員の皆様と一緒に議論を進めていけたらというのが私の思うところであります。

また、そうした議論が進んでプロジェクトチームのようなものが必要だというようなご意見が高まってくれば、例えば太田市なども義務教育学校をつくる時に準備室は随分前からできていたようにも思いますし、桐生市なども今再編に向けて動いています。審議会のようなものを立ち上げていろいろ検討されているようですので、そういったことも必要になってくるのかなと思っています。以上です。

金子委員

今教育長が話していた単学級のことについてです。もう40年前の話ですが、私の息子が小学校に上がる時、私の知る限りではその学校で初めての単学級だったのです。その時の親としての気持ち、自分も経験したことがない単学級で、このまま大丈夫なのかなと本当に心配になりました。子どもたちは結果的にどうだったかはわからないのですが、親として6年間毎年学年が変わる度に今年はどこから引っ越してきて2クラスなってくれないかなと常に思っていました。学校の人数は少ないのにクラスに入ると、まだ小学校の1年生・2年生の時は子どもも小さいですからそこまで感じませんでした。高学年になるとクラス一杯でした。

先ほど話したように、子どもたちの気持ちはわかりませんが、親同士のグループができていて、それが6年まで変わらずに、三十数名しかいなかった学級ですからなかなかお母さん同士で交流することができませんでした。それが私にとってはとても気になっていまして。単学級はこれからどこの学校でも起こり得ることだと思いますが、そういうことがあってはならないのかなと思います。子どもを文科省の決

令和4年度第1回館林市総合教育会議議事録

<p>市長</p>	<p>めた人数で教室の中に詰め込むというのは、やはりいけないのかなと思います。保護者としても、教室がこんなに余っているのにどうしてなのかと理解できないところもありました。お話を聞いていると、予算上ですとかいろいろあるということもわかりましたが、そういうことも配慮しながらこれから学級数についても考えていかなければと個人的には思います。以上です。</p> <p>大変貴重なご意見がいろいろ出たと思います。やはり小人数学級、小規模校のメリットやデメリット、またそれと絡んで施設の老朽化というものが出てきているのも事実かなと思っています。いずれにしろ、いろいろ難しい問題が錯綜しているというのもあり、今後はその課題に取り組む必要があるのではないかと感じました。先進的な取組を継続的に進めている他市の状況など、より踏み込んだ材料を揃えていただいて、ある程度まで皆さんと協議していくことも重要ではないかと感じている次第です。継続案件ではないですが、いろいろなテーマで今後やっていくことも必要かと思っています。先進的な事例についてもいろいろな事例があるでしょうから、それを踏まえて議題として取り計らっていただければと思います。いかがでしょうか。</p> <p>(委員から「異議なし」の声あり)</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。次回も引き続きこの議題を提案させていただくということをお願いしたいと思います。</p> <p>次に、(2)日本遺産「里沼(SATO-NUMA)」の現状と課題と今後についてを議題といたします。</p> <p>こちらにつきまして、協議・調整事項とした理由を教育委員会事務局からご説明願います。</p>
<p>教育次長</p>	<p>それでは続きまして、日本遺産「里沼」の現状・課題と今後についてを協議・調整事項とした理由を申し上げます。</p>

令和4年度第1回館林市総合教育会議議事録

	<p>日本遺産「里沼」につきましては、令和元年5月に認定を受けて以来、様々な広報活動や観光地利用に対応し得る環境づくりと人材育成などに取り組んでまいりました。一方で、令和7年度に認定に関わる再審査が予定されております。日本遺産「里沼」につきましては、本市の大切な宝であり、市長と教育委員会とが協力して取り組んでいる事業でもございますので、この機会にこれまでの取組と今後の予定についてご説明させていただきたいと考え、議題とさせていただきました。よろしくお願いたします。</p>
<p>市長</p>	<p>次に、関連する資料が用意されておりますので事務局より説明願います。</p>
<p>文化振興課長</p>	<p>(2) 日本遺産「里沼 (SATO-NUMA)」の現状・課題と今後について (別紙資料(2)に基づき説明)</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございました。 ただ今、教育委員会事務局から説明がありました。今回は情報共有のみということでございますので協議は行いませんが、ご質問等ございましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。</p>
<p>木戸委員</p>	<p>よろしいでしょうか。</p>
<p>市長</p>	<p>木戸委員、お願いします。</p>
<p>木戸委員</p>	<p>国庫補助①の中にある調査研究の②、旅客ニーズ調査事業というところで、別紙の方を改めて見させていただいて、9ページの令和元年度の効果の部分に課題が記載されていますよね。課題としては、主に個人観光客に関わる二次交通の脆弱性などが挙げられる、観光タクシーやレンタルサイクルの確立などへの対応が急がれるというのが書い</p>

令和4年度第1回館林市総合教育会議議事録

	<p>てあるのですが、急がれるといった点のその後の状況を教えていただければと思います。</p>
文化振興課長	<p>ご指摘の観光タクシーやレンタサイクルなどにつきましては、令和3年度の4月からつつじ観光バスと連携を図りまして、里沼観光タクシーを開始させていただきました。開始前に乗務員の方もご案内ができるようにということで、日本遺産のストーリーや構成文化財の現地研修会などを実施しまして、きちんと里沼について知っていただいて、このタクシーをスタートさせていただいたものです。こちらのタクシーはふるさと納税の返礼品にもなっておりまして、なかなかコロナ禍なので利用するのはこれからだと思っておりますが、そのようにスタートさせていただいています。</p> <p>また、レンタサイクルにつきましても、ぽんチャリというものをつつじのまち観光課で既に里沼以前からやっていたのですが、今回この里沼認定にあたって、4年度からこのぽんチャリを見直しまして、それぞれの管理している場所を少し工夫して、里沼ストーリーの関連エリアの近いところに配置の見直しを実施させていただきました。まだまだPRが足りないところもございますが、そういったところでこちらの課題解決に向けてのスタートを切ったというような状況でございます。</p>
木戸委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>先ほど、説明資料3ページの目標達成度のところで、観光客入込み数がコロナ禍により令和3年度実績50万人ということですが、この50万人という人数がコロナ禍であるという点で高いと捉えているのか、全然足りないという点で高いと捉えているのか。コロナ禍でなければという仮定は非常に難しいとは思いますが、こういった形で捉えていらっしゃるのか、そこだけ伺いたいと思います。</p>
文化振興課長	<p>こちらの実績数値は非常に残念な数字かなと私ども思っております。</p>

令和4年度第1回館林市総合教育会議議事録

て、例年でしたら150から160万人は普通にコロナがなければいっていたのかなというところだと思います。そちらに比べまして、大変少ないというのは残念だと思っています。

ただ、多々良沼がある県立多々良沼公園では、指定管理者の方でどれくらいの方が多々良沼を訪れているかという調査を隔月でカウントしているのですが、そちらを見ますと令和2年度が115万人、令和3年度は94万人という数値が出ていまして、コロナ禍にもかかわらず非常に高い数値が出ております。こういったこともありまして、多々良沼だけではなくてほかの沼、城沼、近藤沼、茂林寺沼、どこまでできるかわからないですが、来訪者のカウントを多々良沼と同じような形でできないものか検討しております。来年度予算でぜひこちらの事業を実施したいと検討しているところです。それによって正式な数値といいますか、200万人という数値が出ることを非常に期待しているものです。以上です。

木戸委員

やはり観光客を入れ込むということが一番難しいのではないかなというところで、難しいですけど一番大事なところで、これが成果なのではないかと考えられます。コロナ禍の状況でなかなか把握しづらいと思いますが、今後啓発をしてニーズが伸びるようにしていただければいいと思います。以上です。

市長

私も多々良沼へ夕方に行くことがあります。特に夕日が綺麗で、逆にコロナ禍こそ屋外で感染予防をした上でウォーキングをしている方も多く見受けられます。夕方に行ったら密になっているほど人気があるという状況ですから、やはり徐々に認知されているのではないかなと思います。ただ、この観光の入込み客数というのは確かに文化振興課長が言ったとおり、160万人ほどのベースで年々来ているものですから、そこから比べるともう少しいろいろな方向で人数を入れることができれば、多くの方が来るのではないかと思います。

令和4年度第1回館林市総合教育会議議事録

栗原委員	感想ですが、私の友人に前橋市や高崎市の人がいて、館林市の里沼が日本遺産になっていることを話したら、知りませんでした。やはりその辺りも何らかの方法で県内、あるいは県外に周知させる方法を検討していければという気はします。以上です。
市長	このことについて、日本遺産推進係長の方から何かありますか。
日本遺産推進係長	今、栗原委員から認知度の向上ということでお話がありました。日本遺産のK P Iの部分、小中学生における日本遺産「里沼」の認知度ということで、これまでいろいろな学校行事や総合学習などで関わってくださった児童生徒数で割ったところ、61.6%という数字を出しております。実は、10月27日から11月10日までの2週間ほどで市内の全小中学生に向けた里沼の認知度アンケートを実施いたしました。回答率は25%くらいだったのですが、里沼の認知度につきましては最新の数字で87%という驚くべき数字が出ております。引き続き、こういった高い数字を維持しながら市内の小中学生の認知度を高めるとともに、外の方に向けてもPRして里沼に対する誘客に取り組めたらというふうに考えております。以上でございます。
市長	ありがとうございました。 では、最後に教育長いかがでしょうか。
教育長	実は、日本遺産フェスティバルというものが10月末に下関で行われて、私も日本遺産推進係長等と一緒に行かせていただいたのですが、全国80を超える地域がそれぞれのブースでPRをしていました。館林市の職員も本当に一生懸命、館林の里沼をPRしました。ガラガラくじなどを持って行って、ぐんまちゃんが当たる懸賞等いろいろ工夫をして、ほかのブースに比べて関心を寄せていただけることが非常に多かったと思っております。ほかの地域も、自分の地区の地域活性化のために本当に懸命にPRしていました。なかなか人口が増えてい

令和4年度第1回館林市総合教育会議議事録

かない中、どうやって自分の地域を盛り立てていくかという、やはり流入人口、移動人口は大事な部分があると思いますので、本当に必死であるということを感じることができました。

また、2点目ですが、各小中学校に里沼のことをどのように学校で取り上げているのかを秋に調べてもらいまして、全ての学校で総合的な学習や理科の環境問題というところで扱っていました。学校によっては、城沼一周親子ウォーキングというものを土曜日に行って、そのようにして触れ合っている学校もございました。先ほど日本遺産推進係長から認知度が上がっているという話がありましたが、今里沼が注目されているということもあって、どの学校もいろいろ工夫しながら取り組んでいるところかと思います。私の方からも、今後国からの補助金もなくなってくるので、ぜひ学校からも盛り立ててほしいということで、年間指導計画等を見直しながら工夫をしてほしいと、10月の校長会議で話をさせていただいたところです。

もう1つ、実は茂林寺沼なども保全のための委員会が組織されていて何年もやっているようなのですが、専門家の方々のお話によると、やはり環境がどんどん変わってきているということです。水の流入が減ってきているために水位が下がってしまったり、夏の暑さに耐え切れずに恐らく枯れて、ある植物は絶滅といいますか、なくなってしまうのではと危惧されている部分もあるというような話も出ていました。里沼に関連して、今後そういった保全のこと、自然を守っていくことも考えていかななくてはいけないなと思っております。これからも、教育委員会を挙げて盛り上げていきたいと思っております。よろしく申し上げます。以上です。

市長

最初に説明がありましたとおり、令和7年度に再審査もごさいますが、やはりこの日本遺産「里沼」を使って地域の活性化が図れるということが重要かと、それがテーマかなと思っております。そういった、ある意味では自走的な取組ということも必要ではないでしょうか。そうした取組をして、ほかの地域の方から認知していただけることが重

令和4年度第1回館林市総合教育会議議事録

<p>市長</p>	<p>要だと私も感じます。以上です。 ほかにご質問はいかがでしょうか。</p> <p>(委員から「なし」の声あり)</p> <p>ないようですので、この議題については以上とさせていただきたいと思えます。ご協力ありがとうございました。</p> <p>皆様のご協力を持ちまして、無事全ての議題を終えることができました。本日ご協議いただいたものにつきましては、教育委員会と市長がお互いを尊重し合い、また、意見交換等を図りながら、協力して今後も進めさせていただきたいと思っております。</p> <p>これを持ちまして、議長の任を解かせていただきます。ありがとうございました。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>長時間にわたりまして、大変ありがとうございました。</p> <p>次第に、4 その他とございます。何かこの場でお話しておきたいことがある方はいらっしゃいますでしょうか。</p>
<p>金子委員</p>	<p>1つ気になったのですが、先ほど学校老朽化の話の時に学校の雨樋に落ち葉が入って水漏れしていたというお話がありましたよね。私補導をしておりまして、コロナ禍でなかなか車に乗る機会がなく、徒歩で補導して学校の周りを巡回させていただく機会がありました。学校の外、ブロックの外側ですが、そこを歩きますと落ち葉が8月でもかなり足元に落ちていて、学校から落ちたものなのか、それとも街路樹のものなのかははっきりわかりませんでした。もしかしてこういった落ち葉が学校の近隣住民の家の方に風向きによって落ちた場合、かなり迷惑なのかなと、そんなことを思いました。うちの方の地域でも、今までは年配の方々が住んでいたのが世代交代で住民が変わって行って、Aさんの家の葉が全部うちの方に落ちてくるなど、いろいろ近隣トラブルが増えてきているそうです。そういうことを考えますと、</p>

令和4年度第1回館林市総合教育会議議事録

教育総務課長

学校の落ち葉が近所の住宅地などに舞って落ちている、今までは許されていたことかもしれないですが、これから住民が変わっていくとそういうトラブルも増えてくるのかなと、そんなことを思って心配になりました。ですので、そういうことも含めながら地域の方たちとのコミュニケーション、落ち葉が飛んできてしまう場合もあるということも気さくに言えるようなコミュニケーションを取りながら進めていくことが必要なのではないかと思った次第です。以上です。

今金子委員からご指摘いただいたお話も、今後の業務の参考にしてまいりたいと考えております。実際に、近隣の方から苦情を受けて対応したという実績はございます。ケースバイケースで考えていかなければならないのかなと考えておりますが、今後の参考とさせていただきます。貴重なご意見ありがとうございます。

ほかにごございますか。

(委員等から「なし」の声あり)

教育総務課長

それでは以上をもちまして、総合教育会議の全日程を終了いたします。

大変おつかれさまでした。ありがとうございました。

(午後4時19分)